

## 令和4年度 堺区自立支援協議会活動報告

### 1. 共通テーマにおける取り組み

令和3年度の取り組みでは堺区の地域特性に注目し、『障害者カップルの子育て支援』『外国籍の障害児支援』について研修を実施し、支援の実態を学んだ。

各テーマへ取り組む中で、共通した課題として、利用者の視点からみた現状の支援制度・体制の複雑さや難解さに改めて気づき、また、そのような状況の中で自己決定支援をはじめ、主体的に利用者が生活を送るためにどのような関りや情報の伝達が求められるかについて考え直すきっかけを得るに至った。

令和3年度の気づきは、令和4年度の共通テーマにも通じ、また、展化していけるものとして、取り組みの主軸に構えることとなった。

取り組みの目標としては、障害や国籍、年齢等にかかわらず自身の生活を身近に捉え、主体的に周囲と関わりながら暮らしていけるようになるための工夫（ツール作り）の検討、成果物の作成を目指し取り組んできた。

成果物作成のイメージとしては、ライフステージごとに待ち構えるライフイベントとそこから起こりえる課題や挑戦へのアプローチ（または支援）をできるだけシンプルに、また、具体的にまとめていくことを共有しながら取り組んできた。

具体的には令和4年度は成果物の骨子を深めることを初歩の目標として、ライフステージごとのライフイベントとそこに係る障害福祉支援などの情報の発散を参加委員で共有していく過程と作業を7・9月の定例会の中でグループワーク中心に取り組んできた。

また、11月の定例会では令和4年度取り組んだ発散の収束や、成果物作成における基本理念や価値観の共通認識の指針づくりのヒントとして、令和3年度を取組の中で触れた、外国籍の方に対しての情報発信における『やさしい日本語』の取り組みについて、令和3年度に続き堺市立多文化交流プラザ・さかいを講師に研修を企画、実施した。

『やさしい日本語』のスタンスは障害福祉分野も当然として、情報伝達やコミュニケーションにおいてユーザー目線の大切さを改めて共有する機会となった。

令和4年度を取組をベースに成果物作成については吟味しながら完成をめざしていく。

#### ◎令和4年度定例会取り組み概要について

7月	9月	12月	1月	3月
グループワーク		研修	グループワーク	
ライフステージごとのライフイベントと、そこに係る支援（サービス）や支援機関の洗いだし作業。（ブレインストーミング）		テーマ：『やさしい日本語』について 講師：堺市立多文化交流プラザ・さかい 内容：講義『やさしい日本語』について （考え方・仕組みなど） グループワーク『福祉制度を『やさしい日本語』で説明してみよう。	成果物作成の骨子としてのライフステージごとのライフイベントの選考作業。	

#### <取り組みから見てきたこと>

- ・ 成果物作成の過程では、改めて福祉制度をはじめとした諸制度の多様さや複雑さが浮かび上がってきた。また、それらに関する情報を当たり前のように使用している現状への気づきも得た。
- ・ ユーザー目線という点でのフィードバックは今後積極的に取り入れる必要があり取り組みたい。
- ・ 伝え方やコミュニケーションへの考え方についても見識を一步深めることができた。手法に寄るのではなく根拠のもと手法を活用するという基本姿勢や、成果物作成における価値観を深める協議ができ始めている。
- ・ シームレスな支援を実践する上で、これらの気づきや価値観の醸成は支援者間での価値観の共有という点で重要であるという認識を得るに至っている。